

「ストックホルム国際青年科学セミナー(SIYSS)」 終了報告書

所	属	理工学研究科	国際開発工学専攻		
			報告書提出時の学年	学部・修士・博士	1年
留学先国	スウェーデン				
留学期間	2009年 12月 4日 ~ 2009年 12月 12日				

SIYSS2009に参加して

2009年12月4日より1週間、ストックホルム国際青年科学セミナー(SIYSS; Stockholm International Youth Science Seminar)に日本代表として参加してきました。SIYSSはスウェーデン青年科学者連盟がノーベル財団協力のもと毎年開催するセミナーで、ノーベル賞授賞式に合わせて世界の若手科学者を集め、国際交流を図ることが目的とされています。今年は世界19カ国から25人の高校生・大学生が集まりました。日本からは国際科学技術財団によって毎年2名派遣されています。国内選考は各大学の学内選考により1名ずつ選ばれ、各校代表者の中から更にエッセイ、面接を経て最終的に2名の派遣者が決定されるという流れになっています。本校からは2003年度以来の参加となりました。

このセミナーはスウェーデンの首都ストックホルムにて1週間の日程で行われました。

- 初日:ノーベル博物館などを見学。
- 2日目:医学生理学賞の選考が行われるカロリンスカ研究所を訪問し、選考委員からのレクチャーを受けた後、生理医学賞受賞者の記者会見に参加。
- 3日目:参加学生が各自の研究を地元高校生に向けて発表。
- 4日目:物理学賞、化学賞、経済学賞、計8人のノーベル賞受賞者の記念講演を公聴。
- 5日目:日本大使館訪問、及びノーベルレセプションに参加。
- 6日目:ノーベル賞授賞式、晚餐会、ダンスパーティー、Nobel Night Capと翌朝5時まで続く全イベントに参加。

このように、さまざまなノーベル賞関連のイベントに参加することができました。このセミナーに参加して一番感銘を受けたことは、ノーベル賞受賞者と直接会話できたことです。今回、ノーベル賞関連の行事の中でも、ごく親しい関係者しか招待されない貴重なイベント、ノーベルレセプションにも出席することができました。この会場は立食パーティー形式となっていたので、近くにいるノーベル賞受賞者と気軽に話すことも出来ました。ノーベル賞という名誉ある賞を受賞された科学者と身近に会話をし、私たち若手科学者の素朴な質問にも丁寧に答えてくださったことに非常に感動したとともに、研究の話になると一段と目を輝かせて話をする彼らに、科学者としての理想の姿を見ることが出来ました。彼らに「研究は辛くなかったか」、「どのように困難を乗り越えたのか」という質問をすると、「自分の好きなことを研究してきたから楽しかった、大変だとは思ったことはない」と口をそろえて言っていたことが印象に残っています。自分の好きな研究テーマに出会うとともに、研究そして科学を純粋に愛しつづけることが彼らのようなすばらしい科学者を生むことになるのだということを学びました。

また、セミナーにいっしょに参加した学生同士の交流もとても刺激的なものとなりました。世界中のさまざまな国から集まった学生たちの多くは各国のコンテストを勝ち抜いてきた秀才たちであり、大学の学部生や高校

生であるにもかかわらず、長期に及ぶ研究プロジェクトを行っている人も何人もいました。お互いに違う分野を専門とする参加学生の研究発表会では、お互いの研究に関するアプローチの仕方やなぜその分野に進むようになったのか、研究テーマはどのようにして選んだのかなど、これからの研究に役立つであろう面白い議論ができ、とても勉強になりました。またこの発表会にはオーディエンスとして地元の高校生も聞きにきたのですが、彼らの熱心さや知識の豊富さには一目置くところがあり、ノーベル賞の国の学生だと思わせる雰囲気がありました。

このセミナーは1週間という短い期間に多くのものを経験できるように、非常にタイトなスケジュールが組まれており、非常に内容の濃い1週間になりました。この分刻みで動くような1週間のセミナーを運営・サポートしてくれたのは現地の学生たちです。彼らは半年以上かけて計画を練り、さまざまな行事への参加はもちろんのこと、食事や宿泊など生活面に関することまで全てコーディネートしてくれました。彼らは私たち参加者と同世代であるにもかかわらず、非常に大人に見えました。北欧では大学生になるとほとんどの人が経済的に親から自立し、自らの人生を歩み始めるそうです。彼らのような立派な学生が、社会の一員としてこのようなセミナーを運営し立派に生きている姿をみると、自分の未熟さを感じざるを得ませんでした。

今回、セミナーに参加したことでものすごく多くのものを学ぶことが出来たように思います。世界の科学者の研究に対する熱い思いを感じ取ったのはもちろん、さまざまな人との交流の大切さや広い視野の重要性、そして何より積極的に行動する必要性を感じました。いろんなものに興味を持ち、いろんなことに挑戦するからこそ、人は学び成長するのだと思えるようになりました。



参加学生全員の集合写真(写真提供:国際科学技術財団)